

インドにおける人工知能（AI）分野の研究開発の動向

—AI 国家戦略「#AIFORALL」から見る課題と今後の展望—

○藍澤 志津 (Shizu AIZAWA)

Keywords : インド、人工知能 (AI)、ICT、研究開発、産学官連携

1 目的

本研究の目的は、インドにおける人工知能（AI）分野の研究開発の動向を分析することである。AI 分野は、近年、加速度的な発展を遂げており、世界の至る所で応用が進むことにより、広範な産業領域や社会インフラなどに大きな影響を与えている。インドは人口規模・構成と経済発展状況により、今後の世界経済に与える影響が大きいと考えられているが、我が国においては、同国の研究開発の枠組みや進展状況に関する情報・知見は十分に蓄積されていない。インドの AI 分野の研究開発の動向を分析することには、少なからぬ意義があると考えられる。

2 先行研究と研究手法

本研究は、一般財団法人マルチメディア振興センターにおいて 2019 年に実施した『世界の AI 戦略—各国が描く未来社会創造のビジョン』の分析結果を踏まえ、諸外国の国家 AI 戦略における研究開発の事例との国際比較を行い、インドの特性の把握を試みた。

3 結果

インドにおいては、2018 年 6 月に、政府のシンクタンクである NITI Aayog が「人工知能国家戦略 #AIFORALL」を発表した。同戦略では、AI の開発・導入により、国内の全ての国民を包摂「ソーシャル・インクルージョン」し、いずれは「世界の 40%のための AI ガレージ」となってインドの AI ソリューションを発展途上国に展開していくという目標が掲げられた。目標の実現のために、研究開発、スキル育成、社会実装の促進、倫理・プライバシー・セキュリティの規制環境の整備が重要であるとした。さらに障壁として、①データ・エコシステムの欠如、②研究開発の不足、③専門知識、人材、スキルの不足、④ビジネスプロセスへの AI 導入における費用の高さと認知度の低さ、⑤プライバシー、セキュリティ、倫理の規制が未整備、⑥現行の知的財産制度での AI の研究と導入のインセンティブ不足が挙げられた。

4 考察

インドの AI 分野の研究開発においては、米国や中国等に比べて遅れていることを踏まえ、現在の AI 国際競争の次の段階での競争を念頭に、研究開発の基盤作りが進展している。しかしながら、取組みはまだ緒に就いたばかりであり、このような初期段階においては政府の積極的介入が必要となることが想定される。インドでは、中国のような国家主導の迅速な展開は期待できず、米国のような市場オリエンティッドな展開も期待できないため、産学官の緊密な連携、その実現のための枠組み整備が重要と考えられる。